

◆◆◆ 平成20年度気象庁関係予算案について

12月24日(月)、平成20年度予算政府案が閣議決定されました。気象庁関係の予算額は、
(単位：百万円)

一般会計	57,435
特別会計 (空港整備勘定)	10,191
合計	67,626 (対前年度比 0.98)

とされており、主要事項の概要および予算額は次のとおりです。

- 1 台風・集中豪雨対策等の強化 (1,001) (単位：百万円)
 - (1) 防災気象情報の高度化 (*は複数年度のうちの平成20年度予算)
 - ア 5日先までの台風予報の実施 (45)
 - ・早期準備による効果的な防災活動を支援するために台風の5日先までの予報を実施(平成21年度目途に提供開始)
 - イ 市町村単位の気象警報の発表(若干) *
 - ・市町村長の防災活動に係わる判断を支援する情報として市町村単位に細分した警報を発表(平成22年度目途に提供開始)
 - ウ 突風等に対する短時間予測情報の提供 (10)
 - ・従来の注意報・警報では不十分な突風等に係る情報提供に向けた検討を推進(平成22年度目途に提供開始)
 - (2) 観測機能の強化
 - ア 次世代アメダスの整備 (945) *
 - ・新型アメダス気象計の整備を推進し、最大瞬間風速などの観測内容を充実
- 2 地震・津波対策の強化 (2,026)
 - (1) 観測・通信・処理システムの高度化・二中枢化
 - ア 次世代地震津波監視システムの整備 (856) *
 - ・地震津波監視の基幹的通信処理システムについて、システムの集約を図り、監視予測機能の高度化と東西二中枢化を実現
 - イ 震度観測体制の強化 (172)
 - ・平成7年兵庫県南部地震直後に整備された震度計処理部を強化
 - ウ 緊急地震速報精度向上のための地震観測点の強化 (32)
 - ・観測点密度の低い島しょ部に緊急地震速報精度向上のため、地震計を整備
 - (2) 東海地震等への対応の強化
 - ア ケーブル式海底地震計の整備 (785)
 - ・4カ年計画(17～20年度)に基づき、引き続き整備を推進
 - イ 地殻岩石歪計観測データ伝送系の機能強化 (180)
 - ・次世代地震津波監視システムの整備に併せ、大阪管区气象台への伝送系の整備により東西二中枢化に対応
- 3 気候変動・地球環境対策の強化 (126)
 - ア 異常気象への対応のための海洋変動監視予測情報の提供 (13) *
 - ・異常気象の頻発への対応として、より広域の熱帯海域を対象とした海洋変動監視予測情報を提供
 - イ 地球温暖化対策のための大気環境観測機能の強化 (113) *
 - ・地球温暖化対策の推進及びポスト京都議定書の検討に資する温室効果ガス等の高精度・長期連続観測を実施

詳細は、気象庁ホームページ (<http://www.jma.go.jp>) 上の報道発表資料 (<http://www.jma.go.jp/jma/press/0712/24a/201224yosan.pdf>) をご覧ください。